

# 学部・研究科等の現況調査表

## 教 育

平成22年6月

千葉大学

## 目 次

16. 融合科学研究科	16- 1
-------------	-------

## 16. 融合科学研究科

Ⅱ	分析項目ごとの水準の判断	・・・	16-2
	分析項目Ⅴ	進路・就職の状況	・・・16-2

II 分析項目ごとの水準の判断

分析項目V 進路・就職の状況

(1) 観点ごとの分析

観点 卒業(修了)後の進路の状況

(観点に係る状況)

博士前期課程では、研究者及び専門性を十分に発揮し社会をリードする高度専門職業人の養成を目指している。平成20年度124名、平成21年度117名の前期課程修了者のうち、企業の研究職、技術職に就職したものは、平成20、21年度にそれぞれ84%、77%と高水準である。また進学も6%、12%と増加している。

博士後期課程では、高度な専門技術者・研究者の育成を目指している。優れた研究業績を上げたことにより、平成20年度に3名が早期修了し、全員が公的研究機関に就職し、研究者の道に進んだ。平成21年度には11名の修了者を数え、そのうち研究機関の研究者1名、ポスドク2名、教員2名、企業の研究職3名、帰国し教員を目指す留学生2名である。就職を希望したものすべてが研究職であり、博士後期課程の教育目標を実現している。

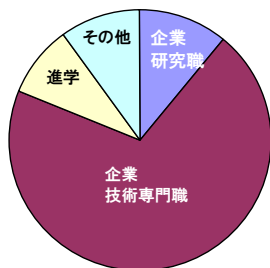
就職先の企業は、研究科の特徴を反映し、バイオ・食品関連企業から電気・機械関連企業にいたる広い分野に及んでいる。その中で画像関連企業への就職が顕著であり、千葉大学の個性である画像教育の歴史を受け継いでいる。(資料V-1)

資料V-1 平成20、21年度2年分の就職・進学状況(修了者数に対する割合(%))

博士前期課程修了者

20年度(124名)	割合(%)
企業の研究職	12
企業の技術専門職	72
進学	6
その他	10

21年度(117名)	割合(%)
企業の研究職	10
企業の技術専門職	67
進学	12
その他	11

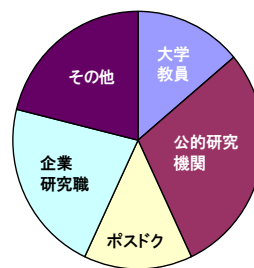


博士前期課程進路  
(平成20、21年度合算)

博士後期課程修了者

20年度(3名)	割合(%)
大学教員	0
公的研究機関	100
ポスドク	0
企業の研究職	0
その他	0

21年度(11名)	割合(%)
大学教員	18
公的研究機関	9
ポスドク	18
企業の研究職	28
その他	27



博士後期課程進路  
(平成20、21年度合算)

資料 主要な就職先（就職人数）（V-1 続き）

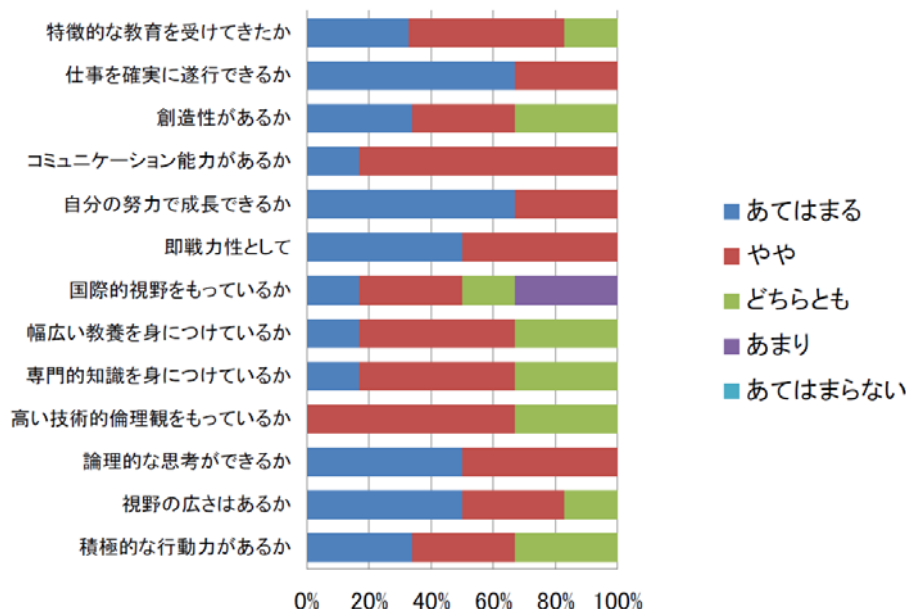
<b>バイオ・食品系</b> ：バイエル薬品1、千葉製粉1、高砂香料1、合同酒精1、ヤマサ醤油1、明治製菓1、鳥居薬品1、DHC1、資生堂1、山崎製パン1、メルシャン1
<b>化学・材料系</b> ：フジクラ3、半導体エネルギー研究所3、ブリヂストン2、チッソ2、日立化成1、日揮1、東芝マテリアル1
<b>情報・通信系</b> ：NTTデータ7、NTTドコモ5、NTT東日本4、日立情報システムズ3、NTTソフトウェア2、NHK1、ヤフー1
<b>機械系</b> ：トヨタ自動車1、ホンダ技研1、ヤマハ1、セイコーインスツルメンツ1
<b>電気系</b> ：日立製作所5、東芝2、日本電気2、パナソニック2
<b>画像系</b> ：リコー9、富士ゼロックス6、凸版印刷5、シャープ5、キヤノン5、ソニー4、セイコーエプソン3、ニコン3、富士フイルム2、大日本印刷2、中日新聞2、理想科学2、コニカミノルタ2、オリンパス2、シグマ光機2、トッパンフォームズ2、東京インキ2、トプコン1、HOYA1、日本写真印刷1、図書印刷1、カシオ計算機1、日立メディコ1
<b>公務員</b> ：千葉県庁3、青森県庁1、柏市役所1、総務省1、神奈川県警1、関東管区警察局1
<b>研究所</b> ：放射線医学総合研究所2、高エネルギー加速器研究機構1、東京大学新領域創成科学研究所1
<b>教員</b> ：千葉大学1、小山高専1、ハサヌディン大学1
<b>進学</b> ：千葉大学16、東北大学1、筑波大学1、九州大学1

観点 関係者からの評価

（観点到に係る状況）

代表的な就職先の企業8社に対して行った研究科の教育についてのアンケート（平成21年12月）の結果では、「仕事が確実に遂行できる」、「コミュニケーション能力がある」、「自分の努力で成長できる」、「即戦力性」、「論理的思考ができる」について「あてはまる」「やや（あてはまる）」を併せて100%の回答を得ており、研究科の目指す社会をリードする高度専門職業人として高く評価されている。また、「特徴的な教育を受けてきた」も「あてはまる」「やや（あてはまる）」を併せて80%を超える回答を得た。画像関連の教育といった他にない個性的な教育を行っていることを評価すると特記した回答もあった。他の評価もほぼ60%を超える評価を得ている。（資料V-2）

資料 V-2 就職先企業等に対するアンケート結果



## (2) 分析項目の水準及びその判断理由

### (水準)

期待される水準を上回る

### (判断理由)

博士前期課程修了者のうち企業の研究開発部門に就職した学生が 81%程度と非常に高い。また、就職先がバイオ関連企業から画像関連企業まで受けた教育を活かせる職場に就職しており、博士前期課程でかかげている教育目標である「社会をリードする高度専門職業人」が十分に達成されていると判断される。また、博士後期課程修了者のうち、就職希望者全員が研究職についており、博士後期課程がかかげている教育目標「高度な専門技術者・研究者の育成」について十分に達成されていると判断される。これらのことは就職先企業等のアンケート結果からも支持される。

これらのことから、期待される水準を上回っていると判断する。